

Spig. 感覚と機能 Phatak

■現物質情報

寄生虫の駆除薬

Spigelia anthelmia は、寄生虫の駆除薬(駆虫薬)として用いられてきた。植物全体にはアルカロイドやサポニンなどの成分が含まれており、これが駆虫作用に役立つと考えられている。特に腸内の寄生虫(主に回虫)を排出するために使用され、ラテンアメリカやカリブ海地域で伝統的な駆虫薬として広く利用されている。



魔除けの植物としての伝承

西インド諸島やカリブ海地域では、セッコンソウが魔除けの力を持つと信じられてきた時代がある。特に、寄生虫を駆除する力があることから、「身体や魂を清める」植物とされていた。呪術や魔術的な儀式において用いられ、悪霊や災厄を遠ざける植物として重宝されていた。

医療と呪術の境界

南米や中米の一部先住民には、セッコンソウを「命の草」として崇める伝承がある。これは、強力な駆虫作用によって健康を取り戻し、「悪しきものを体外に出す」と考えられていたためである。特に、体内に悪霊や悪意が宿ったとされた場合、セッコンソウを煎じて飲むことで浄化が行われていた。この使い方は、医療と呪術の中間に位置し、信仰と密接に結びついた治療法であった。

子どもを守る植物

ラテンアメリカやカリブ海地域では、子どもの健康を守る植物として親しまれた歴史がある。セッコンソウの駆虫効果は、寄生虫が多く病気を引き起こす環境において、子どもを守るために非常に有用とされた。そのため、子どもが健康に育つよう願いを込めて、セッコンソウの根や葉を家に置いたり、お守りとして身に着けたりする習慣が存在していた。

■アフィニティー

三叉神経、心臓、目、歯、線維組織

際立って左側

心臓と目の複合症状

随伴症状として、目の症状

■感覚

刺される・切られる

激しい、焼けた針や針金のような痛み
熱くて赤い、燃えるナイフが心臓に刺さって回るような感じ
針を突き刺されるような痛み
まぶたがちくちくする
刺されるような痛み(舌苔)
胸の刺されるような痛み
接触により刺痛が生じる
激しい突き刺されるような痛み(心臓)
縫われるような痛み
左肩甲骨周辺の切られるような痛み
引き裂かれるよう
電撃のような痛み

圧迫・しめつけ

痛みを伴うほど締め付けられる(腹部)
圧縮されるような痛み(心臓)

大きすぎる

頭部:大きすぎるように感じられる
目:大きすぎるように感じられる

熱感・冷感

激しい、焼けた針や針金のような痛み
黄色か白の苔舌;灼熱感
夜間の一過性の熱感
触れた部位や傷は冷たく感じられる

軽重

歩行時には、身体が軽く感じられ、
椅子から立ち上がる時には重たく感じられる

虫のような

寄生虫が喉をはい上がってくるような感覚
むずむずする感覚(肛門と直腸)

鼻がくすぐったい

引っ張られる

引っ張られるような痛み
へそ周辺のつれられるような痛み

その他

めまい、足が頭より高いように感じられる
耳が詰まったように感じる
弱い、震えるような不整脈
弛緩絶叫

■機能

放射する・広がる

ほかの部位に放射状に広がる
喉、腕、肩甲骨に放射状に広がる(心臓痛)
焦点が定まらない
視野が定まらない
内斜視・外斜視
めまい<見下ろす、まっすぐ前を見なければ
ならない
緊張して自分をコントロールできず、走らなければ
ならないように感じる
痛みは右こめかみに移動
じっと一点を見つめる
ぼんやり考え込むように座る

その他

全身が震える
突然治まり、突然始まる

■精神

先のとがったものが怖いーピン、針。落ち着
きがなく、不安。ぼんやり考え込むように座
る、じっと一点を見つめる。憂うつ、自殺する
ような心情。すぐに気分を害する。